

# 平成27年大磯町議会

## 3月定例会総括質疑（2月24日）

質問議員	質問事項
<p>1 5番 坂田よう子議員 (40分) 9:05～9:45</p>	<p>1. 町長公約に対する平成27年度予算の方針について 平成27年度予算は、2期目の姿勢をしっかりと示すものと考ええる。「日本一住みたい町 大磯」の実現に向け、「健康」「子育て」「観光」「定住」の4つの柱からなる「まちづくり」をゆるぎない信念で進めて頂きたい。 戦略的なベクトルを持ち、事業や取組みを進めていくことこそ「日本一住みたい町 大磯」の実現に向けた第一歩と考える。 そこで、27年度に真に必要なものへの優先度や財源の重点配分として、新規事業や予算増額事業、あるいは、予算計上はなされないが取組む事業として、以下の4つの柱に沿い具体的にどのように進めていくか考えを伺う。 (1) 健康を第一とする町。 (2) 子育てで選ばれる町。 (3) 日本一住みたい町（観光の核づくり事業）。 (4) 多世代が共同する町（定住）。</p> <p>2. 国や県と連動して推し進める「地方創生」への戦略的な取り組みについて 人口減少と地域経済縮小の悪循環というリスクを克服する観点から、地域特性に即して課題を解決し、人口減少に歯止めをかけ、活力ある日本社会の維持を目的に「まち・ひと・しごと創生法」が成立した。これまでの地域活性化政策とは異なり、具体的な成果目標を示し、政策的観点からの評価を行うこととなる。また、新しい価値を生み出し、好循環を地域が構築していかなければならない。 大磯町では、28年度からの総合計画後期基本計画の策定作業に着手しており、同時に「地域再生計画」への取組みも進めている状況にある。さらに、この地方創生への取組みは、施政方針で力説されたごとく、将来の大磯、未来への危機感を強く持ち、全町一丸となり、人口減少社会に立ち向かう、将に「未来」を輝かせるスタートでもあると考える。 そこで、総合計画や地域再生への取組みと同様に重要となる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けた考え方を伺う。 (1) 戦略策定の具体的方針。 (2) 戦略策定の体制。 (3) 産・官・学・金・労・言との連帯。 (4) 大磯町の地域特性に即した戦略となすべき課題解決とは。 (5) 「総合計画後期基本計画」並びに「地域再生計画」策定との関連は。</p>

<p>2</p> <p>13番 鈴木 京子議員 (40分) 9:45～10:25</p>	<p>平成27年度の予算は町長2期目の最初の編成となる。町政の継続に力点をおかれた施政方針と受けとめるが、変化を求める町民もいる。</p> <p>以下の点について問う。</p> <p>(1) 財源不足の解消策は。交付税の減額要因も合わせ、問う。</p> <p>(2) 財源措置における国・県との関係の変更点は。</p> <p>(3) 町の危機感が「観光を進めなければ立ち行かない」から「人口減少」にシフトしてはいないか。後期基本計画策定で町の将来の姿が町民に共有されるものになるのか。他の計画、地方創生戦略も含め問う。</p> <p>(4) 27年度、町民の負担増となるものは何か。</p> <p>(5) 財源の重点配分のひとつ「教育・子育て」では、保育料の値上げ、国府幼稚園の廃園など、逆行する点も含まれているが、このまま進めるのか。また、小児医療費助成は変わらないのか。大磯小学校グラウンド工事は必要だが、芝生化は決めたことなのか。</p> <p>(6) 図書館長が兼務のため、施政方針どおりに進まないのではないか。人員配置は増えるのか。</p> <p>(7) 道路の点検は生活道路も含まれるのか。また、修繕計画も作るのか。地域住民要望は多い。</p>
<p>3</p> <p>3番 渡辺 順子議員 (40分) 10:45～11:25</p>	<p>1. 昨年議会が行った事務事業評価、支援教育推進事業と都市交通推進事業の検証と27年度予算への反映について</p> <p>2. 介護保険事業の中で、地域包括支援センター事業と在宅医療について</p> <p>3. 子ども子育て支援新制度の開始に伴う本町の子育て支援について</p> <p>4. 子育てで選ばれる町としての優先施策とその特徴、現在の本町の子育て支援について</p> <p>5. 定住促進に向けた観光事業の長期展望について</p>

## 3名 14問

※時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。